

平成29年2定 一般質問 開催状況

開催年月日 平成29年6月27日

質問者 民進党・道民連合 広田 まゆみ 議員

担当部課 総合政策部政策局総合教育推進室

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>二 グローバル人材育成の方向性などについて (一)イノベーション人材の定義について</p> <p>知事は、新・北海道ビジョンにおいて、活力ある未来を拓くため、世界を舞台に活躍できるグローバル人材や、独創的で新たな価値を創造するイノベーション人材を育成するとされました。</p> <p>私は、ここ数年ですが、道議会から派遣をいただいたことも含め、ドイツ、オランダ、イタリア、フィンランド、スウェーデンなど、北海道の自立のための地域経営や人材育成のあり方などを主なテーマに研修調査を実施してきたところです。</p> <p>そこで、印象的だったのは、例えば、ドイツ・オランダなどにおいて、産業用大麻、ヘンプを素材とした断熱材などを製造販売している中小規模の経営者たちが、地球規模の気候変動問題の解決や、地域経済の循環に貢献することを、会社のミッションとして掲げていることです。</p> <p>また、ある調査によると、何か地域に問題があったとき、スウェーデンやオランダにおいては、新しいビジネスチャンスや新しい社会サービスを自らつくるチャンスであるととらえる人の数が多いのに対し、日本においては、行政などにその解決を委ねる人が多い傾向にあるということです。</p> <p>私にとっては、イノベーション人材とは、自分たちで問題解決のための新しい社会装置をつくっていく人材であり、少なくともそういう人材に溢れた島に、この北海道をしたいと思っております。</p> <p>しかし一般的には、まだ、イノベーションと言うと、新しい技術の発見など工業的な意味でとらえられがちではないでしょうか。</p> <p>そこであらうかがいますが、知事はイノベーション人材育成にあたって、イノベーションの定義をまず明確にされるべきと考えますが、所見をうかがいます</p>	<p>〔総合政策部長〕</p> <p>イノベーション人材についてであります。道としては、様々なことに好奇心、探究心を持ち、未知の領域に対しても果敢に挑戦する姿勢で、様々な分野で新たな価値の創造に取り組むことができる人材をイノベーション人材と位置づけております。</p> <p>こうした人材が、地域の豊かな資源や可能性を活かし北海道の新たな未来を切り拓いてくれるものと期待していることから、今年度スタートさせたほっかいどう未来チャレンジ基金による海外留学支援なども活用し、国や大学、研究機関、企業との連携のもと、本道発のイノベーション人材を発掘・育成してまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(二)道内の大学等と海外の教育機関との連携について</p> <p>現在の北海道の国際交流の現状を見ると、アジア、ASEAN諸国をはじめ、環太平洋に集中しています。私としては、短期的な利益を求める経済交流のみならず、北海道がめざす持続可能な発展を目指し、真にグローバルな人材、イノベーション人材の育成をめざすならば、ヨーロッパとの連携を強化すべきと考えます。</p> <p>たとえば日本において、残念ながら実践が遅れていますが、北海道においてももし成功すれば強みが発揮できる分野、先ほどちょっと申し上げましたが、産業用大麻のことですとか、これから質疑をさせていただきます、創造性や自己肯定感を育むアウトドア教育のエビデンスの収集や指導者養成プログラムの確立など、具体的なテーマを選定して、ヨーロッパの大学や、研究機関、企業と、道内の大学や研究機関、高校などが、北海道150年を契機として、一斉に連携協定などを結ぶための場づくりなどを道として行うべきと考えます。</p> <p>海外における学びや、つながりを、目に見える形で、子どもたちや、若い人たちに示し、道内の大学や、高校の持つ可能性を拡大することが、個々の若い人たちへの経済支援にもまして、中長期的には、より効果的だと考えますが、道内の大学や高校と、ヨーロッパなどとの教育機関などの連携協定や交流をより一層推進するために、今後、どのように取り組むべきと考えるのか、知事の見解を伺います。</p> <p>(三) グローバル人材育成の目的について</p> <p>私にとって、グローバル人材育成とは、地球規模の大きな社会問題の解決につながる小さな経済を、いわゆる「外貨」を稼ぎながら、地域で回していく人材を北海道に呼び寄せる、あるいは、北海道で育成することです。</p> <p>グローバル人材育成にあたって重要なのは、もちろん今努力をされておりますが、何人、留学生を送り、いくら基金を積んだかということよりも、知事ご自身が、北海道の未来をどのように描いているのかが、道庁組織や道民の皆さんと共有できることも重要であると考えます。</p> <p>知事は、何のために、どんな変化を北海道に求めて、グローバル人材育成に取り組もうとするのか、改めて知事の見解を伺います。</p>	<p>〔総合政策部長〕</p> <p>海外の教育機関との連携等についてであります、道内の大学や研究機関が海外の教育機関との交流や連携を深めていくことは、グローバル人材を育成していく上でも重要な取組と考えております。</p> <p>こうした中、道では、「ほっかいどう未来チャレンジ基金」において、民間企業や道内18大学と連携をし、道内の大学生を対象に、ヨーロッパやASEAN諸国など、海外の大学での研究や現地企業でのインターンシップなどを行う学生留学コースを創設したところであります。</p> <p>今後、道といたしましては、留学期間中の活動内容や帰国後の成果などを積極的に発信していくこととしており、こうした取組を継続していくことで、海外の教育機関との連携や交流の促進につながっていくものと考えております。</p> <p>〔知事〕</p> <p>グローバル人材の育成についてであります、急速にグローバル化が進展する中、本道が、活力ある地域として発展していくためには、世界を視野に入れながら、ふるさと北海道に思いを馳せ、地域に新たな価値を生み出すなど、将来の北海道に貢献していく人材の育成が何より重要と考えるところであります。</p> <p>このため道では、昨年12月に創設をした、「ほっかいどう未来チャレンジ基金」を活用して、若者の海外挑戦を支援する取組を今年度からスタートさせたところであります。</p> <p>私といたしましては、こうしたグローバル人材の育成を、行政だけではなく、北海道全体で取り組み、一人でも多くの若者が、海外に羽ばたき、自信と誇りを持って、北海道の未来を切り拓く力となっていきたいと考えるものであります。</p>